

＜テーマの設定理由＞

理由：戸外でドッチボールや中当て等、ルールのある遊びを楽しむ姿が見られるが、まだまだボールに触れることへの体験は少ない。
一人一人がボールに触れた時の子どもの姿や遊びの展開、友だちとの関わりを見て遊びを広げていきたい。

＜活動スケジュール＞

室内ホールでボール遊びを行う。まずは一人一つ自分のボールに触れて慣れることから遊び始める。
そこから子どもの達の様子を見て遊びを展開していく。

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

1人1つずつボールを持って自由に遊ぶ。
まずはボールに触れたり、持ち上げたり叩いたりして重さや固さを確かめる姿がある。
ボールとの関係を楽しむ姿が見られる。

- ・上に投げてみる
- ・床に転がしてみる
- ・投げたのを取ってみる
- ・突いてみる 等の姿が見られる。



＜活動のために準備した素材や道具＞

ボール（大・小）、素材の違うボール

思い通りにいかないボールの動きに追いかけて取りに行ったり、喜んで何度も繰り返し遊ぶ。
転がったボールを追いかけるうちに、数人の友だちと楽しむ姿が出てきた。
「一緒にやろう」と友だちを誘って転がす遊びが始まる。その様子を見ていた周りの子どもたちも参加し始める。
人数が増えると、ボールを増やしながら遊び始める。ボールが一つの時と二つの時とでは、遊びが違って盛り上がっていた。
段々と人数が広がり数人のグループで遊ぶ姿が見られる。
自分たちでルールを決めたり遊びを工夫しながら、ボール転がしを楽しんでいた。



段々と人数が広がり数人のグループで遊ぶ姿が見られる。自分たちでルールを決めたり遊びを工夫しながら、ボール転がしを楽しんでいた。



大きなボールに変えると、遠くまで届くように全身を使い力一杯転がしていた。
ボールの大きさの違いを楽しむ姿あった。



＜振り返り＞

- ・ドッチボールや中当てを楽しむ姿があるが、まだ集団の遊びに興味がいかなかったり、ボールに触る機会が少なくなってしまう場面もある。1人1つずつボールに触れることでまずは自分が思う存分、ボールと触れ合い楽しむ事が出来ていた。
- ・自分の力加減で遠くまで飛ばしたり、跳ね返ってくる等の感覚を味わう姿が見られた。次第に友だちと遊び始めることで転がして取りに行く、投げてキャッチする等やり取りを持ちながら遊びの工夫をする場面が見られた。人数が増えると、隣の人と足を付けてボールが出ていかないようにする等、声を出し合っていた。ボールを返して友達との関りも変化していった。
- ・大きなバランスボールを使い同様に遊んでみると、重さを感じながら思い切り転がす事を楽しみ、取る時もボールの勢いに負けないように腕を広げて受け止める事を楽しんでいた。
- ・まずは一人一人がボールに触れることで、どんな重さなのか、どんな風に弾むのか、転がるのか等、興味を持って夢中で遊ぶ様子があった。それが一通り終わると、友達との遊びへと広がっていく姿があったので、集団から入らずにまずは験すること大切だと感じた。